

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2644 号

Nutritional status in patients undergoing Phase II cardiac rehabilitation by mini-nutritional assessment

回復期心臓リハビリテーション患者における簡易栄養状態評価表を用いた栄養評価の検討

野澤 洋介 (のざわ ようすけ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

心血管疾患患者の低栄養状態は、日常生活活動度や生活の質を低下させ、生命予後をも規定する。Mini nutritional assessment (MNA)は、高齢者の栄養評価を目的に開発された問診によるスクリーニング方法であり、6項目の設問によるMNA-SF(MNA-Short Form)または全18項目によるMNA総合スコアによって判定されるが、心臓リハビリテーション(心リハ)施行患者におけるMNAの検討は十分ではない。本研究は心臓リハビリテーション患者の栄養状態の評価におけるMNAの有用性を検討した。2017年3月から2019年9月に順天堂大学医学部附属順天堂医院において回復期心リハに参加し、開始時にMNAの評価を行った336例(平均年齢70.1±11.4歳、男性209例、開心術後:151例(45%)、慢性心不全:119例(35%)、その他:66例(20%))を対象とした。MNA-SFにおいて、「低栄養のおそれあり」となり、MNA総合スコアの対象となる患者は、157例(47%)であった。MNA総合スコアでは、「低栄養」は9例、「低栄養のおそれあり」は127例であった。MNA-SF<12の群はMNA-SF≥12の群と比較して、BMI、ヘモグロビン値は有意に低く、MNAアセスメント項目では、タンパク質・水分摂取状況、栄養および健康状態自己評価、上腕周囲長、ふくらはぎ周囲長の項目で有意に低値であった。スクリーニング値12をカットオフ値としMNA総合スコアの「低栄養のおそれあり」または「低栄養」に対する感度は81.0%、特異度は87.5%であった。本研究より、心リハ施行患者の栄養評価においてMNAの有用性が示唆された。また、心リハ患者の約半数は低栄養の可能性があり、摂取内容においても介入の必要性が示唆された。